

PRINTED 2019.0630

ISSN 2189-4957

PUBLISHED BY ASIAN SOCIETY OF HUMAN SERVICES

TOTAL REHABILITATION RESEARCH

June 2019

7



MAMIKO OTA
[MIDNIGHT TOWN]

ASIAN SOCIETY OF HUMAN SERVICES

ORIGINAL ARTICLES

Scale for Coordinate Contiguous Career(Scale C³)
の高校生及び成人版質問紙の開発
—構造方程式モデリングを用いた横断データ分析を中心に—

韓 昌完¹⁾

1) 琉球大学教育学部

<Key-words>

構造方程式モデリング, キャリア教育, Scale C³, 尺度開発, 構成概念妥当性

hancw917@gmail.com (韓 昌完)

TOTAL REHABILITATION RESEARCH, 2019, 7:34-44. © 2019 ASIAN SOCIETY OF HUMAN SERVICES

I. 研究背景と目的

Scale for Coordinate Contiguous Career(Scale C³)は、高等学校でのキャリア教育を中心として、高校生から成人を含め、キャリア発達のための評価を行うことを目的として作成された(韓・沼館・呉屋ら, 2018)。その後、沖縄県におけるキャリア教育事業の実践取組指定校3校を対象とした評価データの収集や、内1校の学校長を含む教員7名を対象とした内容的妥当性の検証により、16領域100項目の試案を完成させた(韓・沼館・呉屋ら, 2018)。沼館・照屋・梅田ら(2018)は、Scale C³の試案に対して、内容的妥当性検証の対象を拡げ、高等学校教員25名、高等教育委機関職員6名、一般企業社員6名、産業医1名に対して調査を行い、高校卒業後の企業等での就職までを見据えた評価項目として、調査対象者の8割以上が妥当であると回答した92項目を選定した。照屋・矢野・下条ら(2018)は、沼館・照屋・梅田ら(2018)の作成した92項目のScale C³の質問紙を参考に、高校生における自己評価用の質問紙を作成し、その信頼性を検証した。調査では156名分の自己評価データを収集し、Scale C³の項目全体において高い信頼性を確認している($\alpha=.972$)。

しかし、Scale C³の質問紙の内、高校生用の自己評価に関する信頼性までしか検証されておらず、尺度の完成のためにはより多くのデータを用いた構成概念妥当性の検証が必要となる。Scale C³は高校生から成人まで一貫した評価とキャリア発達のための支援を目的として作成された尺度であるため、高校生のみならず、成人を含めデータ収集を広く行わなければならない。本研究では高校生と成人を対象として、それぞれ自己評価と他者評価の質問紙をそれぞれ作成することで、Scale C³のデータ収集を行い、尺度の信頼性および構成概念妥当性を検証し、尺度の開発プロセスを完了させることを目的とする。

RECEIVED
MAY 20, 2019

REVISED
JUNE 4, 2019

ACCEPTED
JUNE 12, 2019

PUBLISHED
JUNE 30, 2019

II. 方法

1. Scale for Coordinate Contiguous Career (Scale C³)

Scale C³は、パーソナリティとキャリアの大きく2つの領域に分けて構成されている。パーソナリティとしては、心と体の健康、注意特性、多動性・衝動性、こだわり、自己肯定感の5つの領域が設定されている。キャリアの領域には、さらに下位領域として、中央教育審議会(2011)が示している、キャリア教育のための、基礎的・汎用的能力を参考にして、人間関係形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応基礎能力、キャリアプランニング能力の4つが設定されている。人間関係形成能力の中には、多様性の理解、コミュニケーション・スキル、ソーシャル・スキルが含まれている。自己理解・自己管理能力としては、自己の役割の理解、自己の動機付け、ストレス耐性の3つが挙げられている。課題対応基礎能力には、情報取得、情報表出、情報処理が含まれ、キャリアプランニング能力は意思決定と将来設計で構成されている。それぞれの領域に対して評価項目が設定されており、全部で16領域92項目の尺度となっている。すべての項目は5件法で評価され、それぞれの領域の合計点数をもって評価する。

2. 質問紙の作成

1) 高校生版質問紙

照屋・矢野・下条ら(2018)の研究では高校生が自己評価を行うための質問紙を作成して調査を実施し、その信頼性を検証している。本研究においては、照屋・矢野・下条ら(2018)の作成した高校生版の自己評価用質問紙を使用するとともに、沼館・照屋・梅田ら(2018)が開発したScale C³の文言を自己表用質問紙との整合性を見ながら改稿し、他者評価用の質問紙としてデータ収集を行った。

2) 成人版質問紙

高校生版のScale C³の内、授業や宿題など、学校教育に限定的な用語が成人後でも意味が通じるよう、業務や仕事、活動などに一部調整し、成人版質問紙を作成した。自己評価用および他者評価用の質問項目は高校生版に準拠し、高校生版と成人版で内容の齟齬がないように調整した。

3. データ収集の手続き

1) 高校生版のデータ収集

高校生に対するScale C³の自己評価のデータは、照屋・矢野・下条ら(2018)の研究で使用したデータを用いて分析を行った。照屋・矢野・下条ら(2018)で収集された高校生のデータは2018年7月から9月の期間において、すべて匿名化され、個人が特定できない状態で収集されている。また、研究協力の得られた高等学校に対しては、研究参加と調査データの研究への利用に対する説明を行い、対象となる生徒に対しても質問紙に研究参加への同意説明欄を設けており、質問紙の回答をもって、研究参加への同意を得るものとしていた。また、他者評価のデータは照屋・矢野・下条ら(2018)の調査時点で共に取得されていたが、その際の分析には用いられていなかった。本研究では、先行研究における自己評価データと同一対象者に対して取得した他者評価データとして照屋・矢野・下条ら(2018)のデータを分析する。

2) 成人版のデータ収集

成人を対象とした Scale C³ の自己評価及び他者評価のデータは、研究協力に対して同意の得られた一般企業 2 社の従業員を対象に 2019 年 4 月から 5 月の期間で収集した。高校生版のデータ収集と同様に、企業に対して、研究に対する説明会を実施し、質問紙に含まれる研究参加への同意説明を読み、研究参加に同意した対象者のデータのみを個人が特定できない状態で収集した。

4. 統計分析

本研究で得られた高校生及び成人の Scale C³ の評価データの分析は、照屋・矢野・下条ら (2018) の先行研究に基づき、評価対象者の区別無く、尺度の信頼性が得られるかを確認するため、Cronbach's α 係数を算出する。 α 係数は、0.7 を上回り、1 に近づくほど信頼性が高いとされている (Cronbach, 1951)。また、尺度の構成概念妥当性を検証するため、構造方程式モデリングによるモデルの適合度検証を行う。構造方程式モデリングの適合度指標として、Tucker-Levis Index (TLI) > .900、Comparative Fit Index (CFI) > .900 および Root Mean Square Error of Approximation (RMSEA) < .01 を基準として用いる (狩野・三浦, 2002)。統計解析には IBM SPSS Statistics ver.26 および IBM SPSS Amos ver.26 を用いる。

Ⅲ. 結果

高校生と成人を合わせて 309 名を対象に調査を実施し、項目の点数に未記入のあった 5 名分を除き、自己評価と他者評価のデータを合わせて 304 名分、608 件のデータが集まった。分析対象となったデータは男性が 205 名 (33.7%)、女性が 402 名 (66.1%)、年代は 10 代が最も多かったが、これは高校生に対する自己評価及び他者評価のデータが対象となっているためである。企業では 10 代の対象者はおらず、40 代及び 50 代が共に 83 名 (13.7%) で最も多かった (表 1)。

表 1 対象者属性 (n=608)

	属性	自己評価	他者評価	パーセンテージ
性別	男性	102	103	33.7
	女性	198	204	66.1
	未記入	1	0	0.2
対象年代	10 代	154	157	51.2
	20 代	12	13	4.1
	30 代	32	36	11.2
	40 代	41	42	13.7
	50 代	44	39	13.7
	60 代以上	18	20	6.3

1. 信頼性

Cronbach's α 係数を用いた尺度の信頼性検証の結果、すべての領域および尺度全体において高い信頼性が確認された (表 2)。

表 2 Cronbach's α 係数

領域	α (>.700)
尺度全体	.976
パーソナリティ	.950
心と体の健康(Q1-12)	.877
注意特性(Q13-19)	.880
多動性・衝動性(Q20-25)	.838
こだわり(Q26-31)	.864
自己肯定感(Q32-36)	.710
キャリア	.966
人間関係形成能力	.904
多様性の理解(Q37-40)	.774
コミュニケーション・スキル(Q41-47)	.850
ソーシャル・スキル(Q48-52)	.752
自己管理・自己管理能力	.870
自己の役割の理解(Q53-55)	.772
自己の動機付け(Q56-58)	.764
ストレス耐性(Q59-61)	.785
課題対応基礎能力	.945
情報取得(Q62-71)	.908
情報表出(Q72-78)	.889
情報処理(Q79-85)	.907
キャリアプランニング能力	.861
意思決定(Q86-88)	.710
将来設計(Q89-92)	.812

2. 構成概念妥当性

構造方程式モデリングを用いた分析の結果、図 1 に示すモデルが最も良好な適合度を示した($\chi^2=463.924$, $df=78$, $TLI=.916$, $CFI=.945$, $RMSEA=.090$, $AIC=611.092$)。

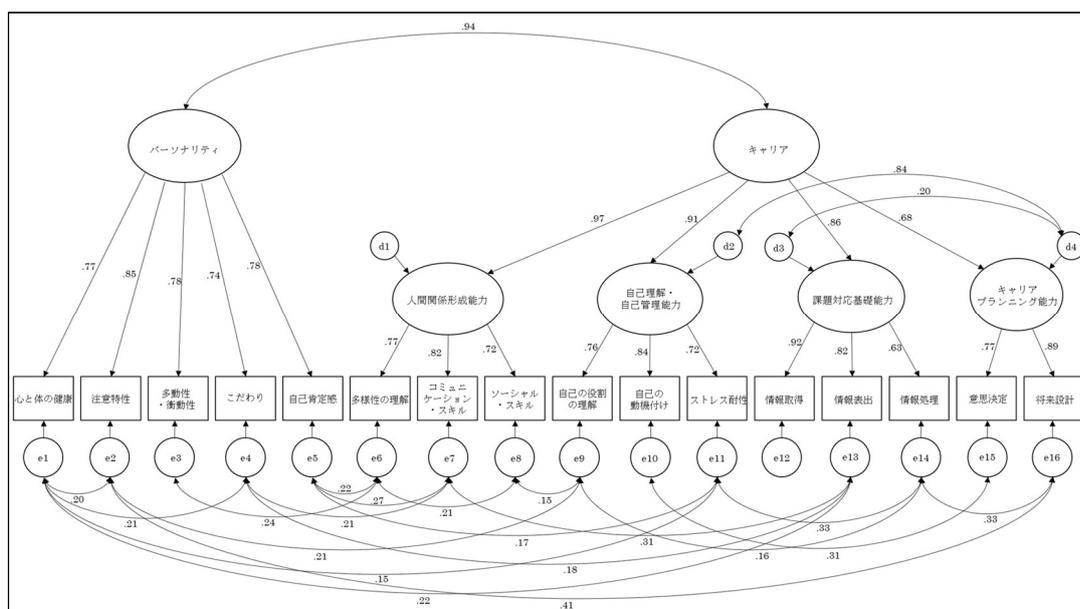


図 1 Scale C3 の構成概念モデル

IV. 考察

Scale C³は、韓・沼館・呉屋ら(2018)によって尺度の試案が作成され、以降、内容的妥当性や高校生版の信頼性が検証されてきた(沼館・照屋・梅田ら, 2018; 照屋・矢野・下条ら, 2018)。本研究では、先行研究において作成された高校生版の自己評価質問紙に加え、内容の整合性を加味した他者評価用質問紙および成人版の自己・他者評価用質問紙を用いた評価データの収集を行い、尺度の信頼性および構成概念妥当性の検証を行った。

信頼性の検証結果では、対象者や評価者が異なるにもかかわらず、すべての領域において、良好な信頼性が確認された。評価尺度の使用によって、自己評価や他者評価といった評価者が異なる場合においても、客観的な評価が行われたためであると考えられる。また、自己・他者評価用の質問紙の内容に関して、あらかじめ整合性を確保するための修正を加えたことが信頼性の向上に寄与したと考えられる。

Scale C³の構成概念モデルでは、パーソナリティとキャリアが独立変数として相関関係にあり、パーソナリティがキャリア形成に一方的に影響するのではなく、相互に影響するという構造が明らかになった。キャリアの下位領域である4領域の内、「キャリアプランニング能力」と「自己理解・自己管理能力」「課題対応基礎能力」がそれぞれ相関を示しており、キャリアプランニング能力の形成のために、自己理解や自己管理能力、また、課題対応基礎能力の育成が必要であるという構造が示唆されたといえる。中央教育審議会(2011)の答申において、基礎的汎用的能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にあると位置付けている。Scale C³におけるキャリアの下位領域は基礎的・汎用的能力を参考として設定されたものであり、その評価項目は基礎的・汎用的能力に具体的内容を加えたものとなっている。本研究の結果は、中央教育審議会の答申で示された基礎的・汎用的能力の考え方をScale C³の構造が反映していることを示唆しているといえよう。

本研究において、Scale C³の信頼性および構成概念妥当性が確認されたことで、尺度としての有用性が検証されたことになる。Scale C³は高校生や成人以降のキャリア形成を個人のパーソナリティと併せて評価することのできる尺度であり、客観的な評価データに基づいたキャリア形成を学校教育の段階から成人まで継続的に行うことで、キャリア形成の課題や目標の設定を適切に検討することができるようになるだろう。

文献

- 1) 中央教育審議会(2011) 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申).
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf (最終閲覧 : 2019/04/17)
- 2) 韓昌完・沼館知里・呉屋光・照屋晴奈(2018) 切れ目のないキャリア教育のための評価尺度(Scale for Coordinate Contiguous Career; Scale C³)の開発. *Journal of Inclusive Education*, 4, 1-20. doi: 10.20744/inclleedu.4.0_1
- 3) 狩野裕・三浦麻子(2002) AMOS, EQS, CALIS によるグラフィカル多変量解析(増強版) 一目で見る共分散構造分析. 現代数学社, 東京.
- 4) Lee Cronbach(1951) Co-efficient alpha and the internal structure of tests. *Psychometrika*, 16, 297-334. doi: 10.1007/BF02310555
- 5) 沼館知里・照屋晴奈・梅田真理・韓昌完(2018) 切れ目のないキャリア教育のための評価尺度(Scale for Coordinate Contiguous Career; Scale C³)の内容的妥当性の検証. *Total Rehabilitation Research*, 6, 33-44. doi: 10.20744/trr.6.0_33
- 6) 照屋晴奈・矢野夏樹・下条満代・韓昌完(2018) Scale for Coordinate Contiguous Career (Scale C³) 自己評価用(高校生版)の信頼性の検証 —沖縄県内高等学校のデータを用いた分析—. *Journal of Inclusive Education*, 5, 53-60. doi: 10.20744/inclleedu.5.0_53

フェイスイースト	
評価シート	記入欄
自己評価用 ＜学校版＞	実施日* ()年()月()日 性別* 男・女・その他 学年* ()年()組()番 「項目*」は回答必須
キャリア	キャリア キャリア キャリア
自己理解 自己管理能力	自己理解 自己管理能力
多様性の理解	多様性の理解
人間関係 形成能力	人間関係 形成能力
コミュニケーション スキル	コミュニケーション スキル
ソーシャル スキル	ソーシャル スキル
自己の役割 の理解	自己の役割 の理解
自己の 動機付け	自己の 動機付け
ストレス 耐性	ストレス 耐性
情報取得	情報取得
情報表出	情報表出
情報処理	情報処理
意思決定	意思決定
将来設計	将来設計
キャリア プランニング 能力	キャリア プランニング 能力
課題対応 基礎能力	課題対応 基礎能力
心と体の健康	心と体の健康
注意特性	注意特性
多動性・ 衝動性	多動性・ 衝動性
こだわり	こだわり
自己 肯定感	自己 肯定感

付録 1. Scale C3 高校生版自己評価用質問紙

評価シート		フェイスシート		記入欄	
実施日*		()年()月()日			
年代*		10代・20代・30代・40代・50代・60代以上			
性別*		男・女・その他			
職種		※自由記述			
勤続年数		1年未満・1～5年・5～10年・10～15年・15～20年・20年以上			
「項目*」は回答必須					
					
心と体の健康		<p>最近1週間、体調が悪いと感じた回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
注意特性		<p>最近1週間、集中力が続かなかったと感じた回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
多動性・衝動性		<p>最近1週間、衝動的な行動をした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
こだわり		<p>最近1週間、こだわりが強すぎて困った回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
自己肯定感		<p>最近1週間、自分に自信が持てなかったと感じた回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
キャリア		<p>最近1週間、キャリアに関する悩みや不安を感じた回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
パーソナリティ		<p>最近1週間、パーソナリティに関する悩みや不安を感じた回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
多様性の理解		<p>最近1週間、多様な人種や文化を理解しようとした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
人間関係形成能力		<p>最近1週間、新しい人と関係を築こうとした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
コミュニケーション・スキル		<p>最近1週間、コミュニケーションスキルを向上させるために努力した回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
ソーシャル・スキル		<p>最近1週間、ソーシャルスキルを向上させるために努力した回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
自己の役割の理解		<p>最近1週間、自分の役割を理解しようとした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
自己の動機付け		<p>最近1週間、自分の動機を強化しようとした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
ストレス耐性		<p>最近1週間、ストレスに耐えることができた回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
情報取得		<p>最近1週間、新しい情報を取得しようとした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
情報表出		<p>最近1週間、自分の考えや意見を表出しようとした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
情報処理		<p>最近1週間、情報を効果的に処理しようとした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
意思決定		<p>最近1週間、重要な意思決定をした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
将来設計		<p>最近1週間、将来の目標や計画を立てようとした回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			
キャリア・プランニング能力		<p>最近1週間、キャリアプランニングを行った回数はいくらありましたか？</p> <p>1. 全くありません</p> <p>2. 1回</p> <p>3. 2回</p> <p>4. 3回</p> <p>5. 4回</p> <p>6. 5回以上</p>			

付録 3. Scale C³ 成人版自己評価用質問紙

ORIGINAL ARTICLES

Development of Questionnaires for High-School Students and Adults Version of Scale for Coordinate Contiguous Career (Scale C³);
Focusing on Verification of Construct Validity Using Structural Equation Modeling

Changwan HAN ¹⁾

1) Faculty of Education, University of the Ryukyus

ABSTRACT

Scale for Coordinate Contiguous Career (Scale C³) was organized by Han, Numadate, Goya et al. (2018). Also, the content validity of the Scale C³ has been verified, and a questionnaire to self-assessment for high school students version has been developed. In this study, a questionnaire to assessment from others for high school students and two questionnaires to assessment from self- and others for adults were developed. In addition, this study aimed to verify the reliability and construct validity of the Scale C³. Data were collected from high school students and adult subjects, of which self-assessment and others-assessment data were nearly equal. The reliability of the Scale C³ was high in all domains of Scale C³ ($\alpha=.707\sim.966$). Also, the reliability of the whole Scale C³ was very high ($\alpha = .976$). As a result of validation for construct validity using structural equation modeling, a model showing a good fit was presented ($\chi^2=463.924$, $df=78$, TLI=.916, CFI=.945, RMSEA=.090, AIC=611.092). In this study, reliability and construct validity of Scale C³ were verified, and scale development was completed. It is expected that Scale C³ will be used as an objective assessment scale for continuous career development from the school education stage to adults.

RECEIVED
MAY 20, 2019

REVISED
JUNE 4, 2019

ACCEPTED
JUNE 12, 2019

PUBLISHED
JUNE 30, 2019

<Key-words>

structural equation modeling, career education, Scale C³, scale development, concept validity

hancw917@gmail.com (Changwan HAN)

TOTAL REHABILITATION RESEARCH, 2019, 7:34-44. © 2019 ASIAN SOCIETY OF HUMAN SERVICES



TOTAL REHABILITATION RESEARCH

EDITORIAL BOARD

EDITOR-IN-CHIEF

Masahiro KOHZUKI Tohoku University (Japan)

EXECUTIVE EDITORS

Changwan HAN University of the Ryukyus (Japan)



Aiko KOHARA

University of the Ryukyus (Japan)

Daisuke ITO

Tohoku Medical Megabank Organization (Japan)

Eonji KIM

Miyagigakuin Women's University (Japan)

Giyong YANG

Pukyong National University (Korea)

Haejin KWON

University of Miyazaki (Japan)

Hitomi KATAOKA

Yamagata University (Japan)

Hyunuk SHIN

Jeonju University (Korea)

Jin KIM

Choonhae College of Health Sciences (Korea)

Kyoko TAGAMI

Aichi Prefectural University (Japan)

Makoto NAGASAKA

KKR Tohoku Kosai Hospital (Japan)

Masami YOKOGAWA

Kanazawa University (Japan)

Megumi KODAIRA

International University of Health and Welfare
Graduate School (Japan)

Minji KIM

National Center for Geriatrics and Gerontology
(Japan)

Misa MIURA

Tsukuba University of Technology (Japan)

Moonjung KIM

Korea Labor Force Development Institute for the aged
(Korea)

Shuko SAIKI

Tohoku Fukushi University (Japan)

Suguru HARADA

Tohoku University (Japan)

Takayuki KAWAMURA

Tohoku Fukushi University (Japan)

Yoko GOTO

Sapporo Medical University (Japan)

Yongdeug KIM

Sung Kong Hoe University (Korea)

Yoshiko OGAWA

Teikyo University (Japan)

Youngaa RYOO

National Assembly Research Service: NARS
(Korea)

Yuichiro HARUNA

National Institute of Vocational Rehabilitation
(Japan)

Yuko SAKAMOTO

Fukushima Medical University (Japan)

Yuko SASAKI

Sendai Shirayuri Women's College (Japan)

EDITORIAL STAFF

EDITORIAL ASSISTANTS

Mamiko OTA Tohoku University / University of the Ryukyus (Japan)

Sakurako YONEMIZU University of the Ryukyus (Japan)

as of April 1, 2018

TOTAL REHABILITATION RESEARCH

VOL.7 JUNE 2019

© 2019 Asian Society of Human Services

Presidents | Masahiro KOHZUKI & Sunwoo LEE

Publisher | Asian Society of Human Services

#216-1 Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1, Senbaru, Nishihara, Nakagami, Okinawa,
903-0213, Japan

FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ash201091@gmail.com

Production | Asian Society of Human Services Press

#216-1 Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1, Senbaru, Nishihara, Nakagami, Okinawa,
903-0213, Japan

FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ash201091@gmail.com

TOTAL REHABILITATION RESEARCH
VOL.7 JUNE 2019

CONTENTS

ORIGINAL ARTICLES

Communication Gaps in Interprofessional Collaboration between Medical
and Welfare Professionals

Miki ARAZOE 1

Research on the Meaning of Support for Promotion of Self-understanding for
Persons with Psychiatric Disorder at Vocational Rehabilitation;
Integrative Analysis with Text-mining

Kazuaki MAEBARA 22

Development of Questionnaires for High-School Students and Adults Version
of Scale for Coordinate Contiguous Career (Scale C³);
Focusing on Verification of Construct Validity Using Structural Equation
Modeling

Changwan HAN 34

Influences of Depression and Self-esteem on the Social Function of
Autobiographical Memory

Kyoko TAGAMI 45

REVIEW ARTICLE

Basic Study for the Development of the Teaching Method based on the
Relationship between Psychology, Physiology and Pathology of Children
with Health Impairment

Haruna TERUYA et al. 61

SHORT PAPERS

Developing an ICT-based System to Support Care-dependent Older Persons
to Continue to Live in Their Own Homes;
User Interface Evaluation

Kazutoshi FURUKAWA et al. 70

Basic Study for Development of Assessment INDEX of Psychology,
Physiology and Pathology for Intellectual Disability Children;
From Point of Change of Diagnostic Criteria and the Definition of the
Concept of Adaptive Behavior

Mamiko OTA et al. 83